

ぐりーんず greens

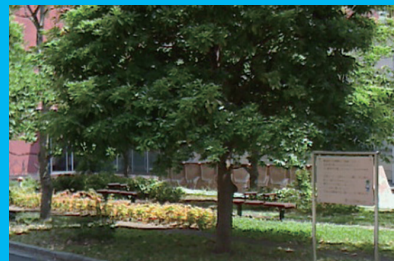
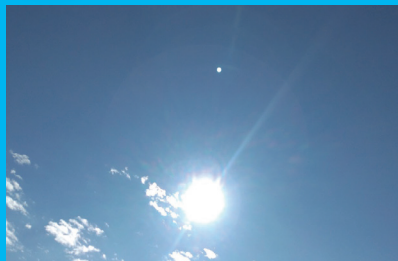
第34号

2024.6 発行

理念：地域社会に信頼される病院としての心温まる医療と急性期・高機能・先進医療との調和

基本方針

- ・ 本学の理念である「至誠と愛」に基づき、皆さまに信頼される病院を目指します。
- ・ 患者さんのプライバシーを守り、一人ひとりの権利を尊重します。
- ・ つねに最先端の医療技術と知識を用いて、安全で良質の医療を提供します。
- ・ 患者さんに合った最善のチーム医療を行います。
- ・ 中核病院として地域の診療所・病院等との連携を推進し皆さまの健康を維持・増進します。



病院長ご挨拶



八千代医療センター病院長の新井田達雄です。

日頃の皆様方の八千代医療センターへの多大なるご理解とご支援を深く感謝申し上げます。

3月末日に、女子医大に関する報道があり、皆様にはご心配をお掛けしておりますが、様々な疑惑に対して第三者委員会を立ち上げ、問題の早期解明に向けて法人全体として真摯に取り組んでおりますことを、先ずはご報告いたします。病院における研究・診療・教育の3本柱は、全く影響がないことを追加してご報告いたします。

さて、4月1日より新たに医師の働き方改革が実行されております。医師の時間外労働の上限規制が設けられ、夜勤後の勤務間インターバルを設けて休息時間を設定しなければならないため、診療科ごとの勤務体制を見直し、救急や夜間の応需体制に問題が出てくるかと思われます。タスクシフトを徹底的に進めるなど、これまでの医師の労働体制に抜本的な改革が必要となります。このために当初は多少の混乱が予想されるかと存じますが、これを契機に旧態依然とした医療体制を見直し、その効率化を進めるには良い機会となるかもしれません。

学会や研究会などの対面での開催が盛んになり、病院でのお見舞いが緩和されるなど、以前と同程度の規制にはなりつつあります。しかし、コロナも5類感染症になったとはいえ、まだまだ感染者数が微増している状態で、完全には鎮静化してはおりません。少し、感染症の推移を見守りつつ、緩和体制を推し進めていかなければなりません。

本来ならば、皆様に拝眉の上、このようなことを直接ご相談やご報告申し上げたいところですが、書面にてご挨拶申し上げますことをお詫び致します。

皆様、どうぞよろしくお願い致します。

令和6年6月

東京女子医科大学附属八千代医療センター
病院長 新井田 達雄

総合診療科 診療科長就任のご挨拶

総合診療科 科長 趙 明浩



この度八千代医療センターで総合診療科を担当することになりました。
総合診療とは何なのか分かりにくいところもありますが、格闘技に例えればボクシングのような打撃も柔道のような組み手もどちらもやる綜合格闘技みたいなもので（よけい分からなくなるかもしれませんが）診療科に拘らずあらゆる領域の疾患・外傷の初期対応を行い、必要に応じて専門診療科に繋ぐなどプライマリ・ケア的な役割が期待されています。“蝶のように舞い蜂のように刺す”軽やかなフットワークと的確な診断処置で地域の皆様方の健康に少しでも貢献できれば幸いです。

東葛南部地域医療支援病院共同運営委員会における講演

集中治療科 科長 救急科兼務 落合 香苗

5月8日、当院大会議室において東葛南部地域医療支援病院共同運営委員会が開催され、「大規模災害への備え」というタイトルで講演させていただきました。今回は会場講演とZOOM配信のハイブリッドで行われ、東葛南部地域の病院の病院長、各市の医師会長・歯科医師会長、行政・市民の代表の方などにご参加いただいております。

講演では、前半に令和6年能登半島地震におけるDMAT派遣の活動報告、後半に千葉県が被災地となった場合のDMATとの連携の取り方についてお話をしました。

令和6年1月1日発災時、皆さんは何をされていたでしょうか。私は当直業務のため、電車で病院に向かっていました。突然、車両中の携帯電話からけたたましい緊急地震速報が鳴り響き、異様な雰囲気になったことを覚えています。震源が能登であることはすぐに分かりましたが、もしこれが、千葉県が被災地となる大規模災害だったら、と頭の中でシミュレーションをしました。電車はすでに八千代市内まで来ており、私自身は徒歩で病院に参集することは可能でしたが、1月1日の夜勤帯に差し掛かる時間に、どれだけの病院スタッフが参集できるのかは大きな課題でした。

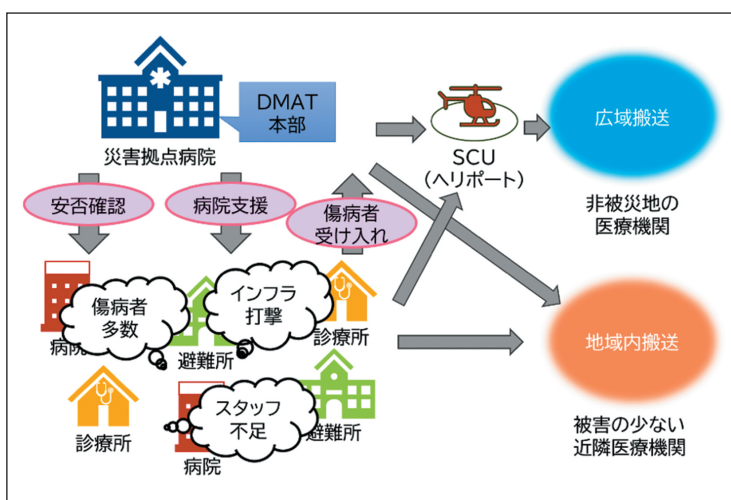
当院からの能登半島地震へのDMAT派遣は、2月5日から8日までと発災から時間が経っており、急性期医療を支援するDMATから、復興や地域の自立を支援するDHEAT（Disaster Health Emergency Assistance Team：災害時健康危機管理支援チーム）やJMAT（Japan Medical Association Team：日本医師会災害医療チーム）に本部運営を移行する重急性期でした。大規模災害時には、DMATのみならず多くの外部支援組織が



能登半島地震の道路・家屋被害

参入すること、発災時だけでなく、地域が自立していけるように徐々に管理の主体を委譲していく流れなどを、派遣先の能登町の実例をご紹介しますながら説明しました。そして、東葛南部地域が被災地となり、受援側になった場合、DMATなどの外部支援組織がどのようなしくみで派遣されてきて、どのような役割を担うのかということについても解説しました。

気象庁のデータベースでは、今年に入ってから4月末までに震度5弱以上の地震がすでに23回観測されています。東葛南部地域でも、千葉県北西部直下地震や東京湾北部地震などの大地震が想定されます。当院でも、災害時に実効性のある対策マニュアルやBCP（Business Continuity Plan：事業継続計画）の策定・改訂が喫緊の課題です。また、地域の医療機関などと連携した訓練を行って、日頃から大規模災害に対する備えをしておくことが重要です。



DMAT の活動

糖尿病看護特定認定看護師としての活動

糖尿病看護特定認定看護師／エキスパートナース 田中 景子



糖尿病看護認定看護師を取得してから、院内外に問わず糖尿病ケアに携わってきました。その中で常に感じていたことは「もっとタイムリーに薬物の調整ができればいいのに」と言うことでした。糖尿病薬の種類はたくさんあるし、飲み方は様々だし、注意しなくちゃいけないこと山盛りだし。でも、その都度医師に確認するのはちょっと敷居が高い……というジレンマです。糖尿病看護に携わって約30年。それなりに経験してきましたし、それなりに勉強もしてきました。そしてそれなりに糖尿病薬のことは理解しています。でも、薬物の調整については権限がない！！もっとタイムリーに関われれば、患者さんも現場も助かるのになあ……と常々考えていました。

2016年より、特定行為「血糖コントロールに係る薬剤調整」の受講が開始されました。当時は受講よりも目の前の業務をこなすことで精一杯でした。月日が経ち、いろいろな状況が変化しました。薬物調整へのジレンマが再燃し、看護部長に相談しました。部長は「いいじゃない！是非行ってちょうだい！！」と諸手を挙げて（？）賛成してくださり、受講することができました。

「血糖コントロールに係る薬剤調整」の需要は高く、研修を修了してから思ったよりもすぐ特定行為を開始することができました。始めた当初は「看護師なんかに何ができるんだ」など否定的なことを言われることも覚悟していましたが、そんなことは全くなく、様々なスタッフから肯定的な言葉をいただ

くことが多くありました。

昨年10月から特定行為を開始し、病棟の看護師さんにもご協力をいただきながら、順調に特定行為を行っています。対象患者さんには周術期や化学療法目的での入院の方が多く、術前後やステロイド使用中の血糖管理は難しいですが、やりがいを感じています。また、今後、特定行為研修や診療看護師になりたいと思っている方は、一度ご連絡いただければ、何らかのお役に立てるのではないかと思います。

このように特定行為を続けていられるのも、ご指導いただいている糖尿病内科の医師や在籍している自部署のメンバーのご理解・ご協力があるからこそと心から感謝しています。

今の私の野望(!)は、糖尿病ケア回診を始めること。相談を待つのではなく、各部署に伺って直接、スタッフに困りごとはないか見つけに行くこと。これが目標です。現場では糖尿病ケアで困っていることがあっても誰に相談したらいいか、こんなことを相談してもいいか、と悩んでいることも今回特定行為で知りました。スタッフの困りごとは患者さんにも大きく影響します。いつか、目標が達成できるように日々研鑽を積んでいきたいと思っています。

また、超高齢社会となり、独居でインスリンを必要とする患者さん、食事の準備が出来なくなってきた患者さんなど、地域での困りごとにもつきないと思います。出来るならば地域の医療者の方々へも私の知識や技術を還元していきたいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。

お知らせ

ご紹介の際は、紹介状(診療情報提供書)をご用意頂き、事前のご予約をお願い致します。

医療機関からの診察・検査連携のご予約(地域連携直通)

TEL 047-458-6543 FAX 047-458-6545

受付時間 平日 9:00~17:00・土曜日 9:00~13:00

※日曜、祝日、第3土曜日、創立記念日(12/5)、年末年始(12/30~1/4)はお取扱しておりません。

※時間外の場合はFAXを送信して下さい。翌受付時間内にご連絡させていただきます。

※予約日時・医師等の変更を希望される場合は前日までにご連絡下さい。



医療連携マネージャー(医師)

緊急を要する当日(日中)のご紹介は、紹介診療科が定まっている場合は従来通り当該診療科の医師が対応します。

担当診療科の特定がしにくい場合は、「医療連携マネージャー」が電話対応をさせていただきます。

ご対応は地域連携直通電話の受付時間内とさせていただきます。

患者さんからの診察のご予約(予約センター)

TEL 047-458-6600

受付時間 平日 9:00~16:00・土曜日 9:00~12:00

※日曜、祝日、第3土曜日、創立記念日(12/5)、年末年始(12/30~1/4)はお取扱しておりません。

※予約日時・医師等の変更を希望される場合は前日までにご連絡下さい。

やちよ夜間小児急病センター(中学3年生までの小児対象)

TEL 047-458-6090

受付時間 毎日 18:00~23:00

医療相談は行っておりません。ご予約の必要はありません。受付時間内に直接ご来院下さい。

検査連携(医療機関から申込)

検査連携のご依頼は地域連携直通電話の受付時間内とさせていただきます。

応需検査:CT、MRI(単純)、RI、XP、マンモグラフィー、骨密度測定、セファロの画像検査



東京女子医科大学

八千代医療センター

TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY YACHIYO MEDICAL CENTER

〒276-8524 千葉県八千代市大和田新田477-96

TEL 047-450-6000(代表)

TEL 047-458-6545

患者支援センター TEL 047-458-6543(直通)